

2021/9/29  
12:20 更新

西山キミエ成年後見人 安部 高樹 様  
辻恭子代理人 弁護士 谷 直樹 様  
弁護士 岩永 隆之 様  
辻 竜也 様  
西山 円・敬子 様

松山市道後湯之町 西山美年子

件名： 相続に備えて、父留太郎、母キミエから聞いたことを書きます。

美年子発 2019 年 12 月 1 日付の文書 22 ページ～23 ページに記載しています。→添付

1. 昭和 42 年、横山の両親と私が西山にお招きを受けました。  
会食をしている時、突然に留太郎父が「和子と紘二に3,000万円貯金している。」と大声で怒るようにおっしゃいました。その時は、何のことも分かりませんでした。最近になって思うのですが、和子、紘二のことを尋ねられるのが嫌だったのでしょうか。留太郎父が和子、紘二について発言したのはこの時一回限りです。病気のこと、入院先のこと、など美年子には何も話されることはなかった。
2. 同じく 23 ページ、昭和 50 年代のことです。  
キミエ母は「和子、紘二には、別々にまとまったお金を貯金している。」と伝えました。しかし、和子と紘二の病気のこと、入院先のことなどについては、現在に至るまで一度も美年子に話されたことはありません。  
  
父も母も、「和子、紘二のことで美年子には迷惑をかけない。美年子の世話にはならない。親としてきちんと準備をしている。」とおっしゃりたかったのではと私は受取っています。
3. 昭和 54 年 3 月 21 日、留太郎父の死後、何年か経って母は一人暮らしに慣れ、落ち着いた頃のことでした。  
「留太郎父は、大きな心配を抱えていた。いつも和子、紘二のことが頭の中にあった。それは、死ぬ前まで続いていた。」と美年子に話されました。

後見人報告書を見て分かったこと、

毎月振込まれる諫早の駐車場賃料10万円。

これは、留太郎父の相続の時、和子と紘二の名義になったものです。

キミエ母は、年金だけでは生活できないので、和子と紘二のものと分かっているながら10万円を毎月、当たり前のように費消しています。

キミエ母のお金の使い方を後見人報告書の添付資料(預金口座のコピー)から知ることができま

した。

和子、紘二には別にお金を貯金している、との安心感からキミエの生活費に使っていた、と推察されます。

二人に残っていた預金は、後見人報告書には記載されていません。

和子、紘二にまとまったお金が置いてあるのは事実だと思います。

この件に関しては、恭子が事情を知っていることは間違いありません。

### 紀男記始め、

調査方法としては、キミエを老人ホームに入居させる直前の時点におけるキミエ口座の状態をCMF(顧客管理ファイル)で調べていただければ、真偽が判明します。

この件は、安部 成年後見人に調査を依頼したい。

### 紀男記終わり。

以下、キミエ母から聞いたことを続けます。

父の死後、何年か経って、仏様まいりに寄ったとき、「キミエ自身の葬儀代は、互助会に入っている。」

それから押入れの前まで私を連れて行って、布団の間に挟まった現金の袋を見せてくださいました。「急なことがあった時には、これを使うように、」と一人暮らしの不安からおっしゃったのでしょう。

2019年12月1日付、美年子発文書9ページ。

二世帯住宅に入居後、間もなくの頃、美年子帰崎のおり、仏様のおまいりに寄った。キミエ母一人在宅だった。

その折、二世帯住宅建築のため、喜々津の土地を売って3500万円を辻に渡した。

足りない分は、辻がローンを組んだ。

土地はキミエ名義のまま、建物は共同名義にした。

固定資産税は、土地はキミエ、建物は辻俊雄が納付する、と決めた。

次に寄ったときも母一人在宅だった、(同居から3年後くらい)

恭子さんは入院中、竜也が予備校からもうすぐ帰ってくるので夕食の準備をする。

俊雄さんは毎日、恭子の見舞いに行っている、と嬉しそうな笑顔を見せた。

「恭子は思っていたより身体が弱い。」、「自分は手術とか入院とかしたことない。」

「水道、電気代は自分が出している。ガス代は辻が出している。」

いろいろ雑談をしました。

恭子は「優しかごたる。」とおっしゃっていました。

私どもが千葉市に在住していた頃です。

恭子さんがナガセのお仕事を始められました。

キミエ母は、とても嬉しそうに、恭子を応援していることを話してくださいました。

「ナガセの化粧品、サプリメントなど、月に5万円くらい恭子から買っている。

ナガセの研修出張があるときは、幼い子供二人を預かっている。

諫早から来る辻家族のために、大きな炬燵に買い替えた。

辻家族が泊まれるように、庭の一部を潰して増築した。

諫早の法事にいくために「白大島」の和服を新調した。

辻家族との小旅行や外食を楽しんでいる。」

など、屈託なくいろいろ話をしてくださいました。

私の両親も年金暮らしをしていました。

私の母寿美子と比べて、何と豊かでお金持ちなんだろう！ と羨ましく思っていました。

以上、



謝します。

2019/12/01

「相続問題に関するトラブル」より

抜粋: Page 23

## その他、諸々。

1. 昭和42年、私と紀男が婚約した後、横山の両親と私が、西山のお家にお招きを受けました。

お座敷で、お御馳走をいただいている時、突然に留太郎父が「和子と紘二に3000万円貯金している。」とおっしゃいました。

私の両親は、和子さん、紘二さんがどこで、何をしている人か知らなかったのと、3000万円と言う大金にびっくりしたそうです。

2. 昭和50年代のことです。

昭和47年に長男（英男）が長崎の社会福祉法人「みのり園」に入所しました。それから5～6年経った時、「みのり園」から次の指導を受けました。

「英男の障害年金が振込まれる銀行口座に多額の残高を残さないようにした方がよい。監査の時に引っかかることがあります。」

それで、美年子名義の口座をつくり、貯まる度にそこへ移管しています。

上記のことを長崎に帰った折、キミエ母に伝えました。

「和子、紘二の障害年金口座のお金も、それぞれにキミエ名義の口座を作って移管しよう。」とおっしゃいました。

その折に、「和子、紘二には、別々にまとまったお金を貯金している。」ともおっしゃいました。

3. 昭和40年、弟（紘二）が香川大学・経済学部を卒業するときでした。

父 留太郎からの呼び出しで長崎に帰った時、「紘二は卒業した後、専攻科に進みたい、と希望している。しかし、これ以上学資を出し続けるには経済的に限界がある。そこで、紀男が授業料を出してくれるなら、紘二の希望を叶えて進学させてよい。」と相談を持ちかけられました。

入社2年後の薄給でしたが、2年間、援助しました。 **紀男記、**

4. 平成11年、母が道後の私宅に遊びにきました。